

油断大敵

part 2

問い合わせ先

防災交通課

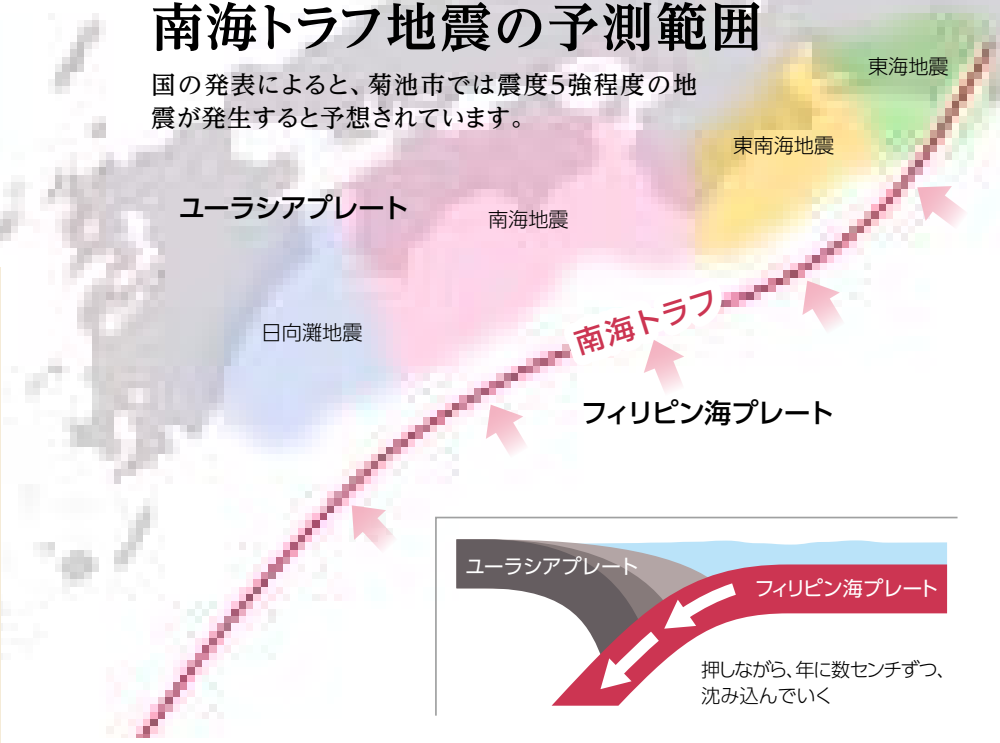
☎0968(25)7203

「大きな地震はもうしばらくは起こらないだろう」と思っていますか。熊本地震から2年。余震や報道の回数は随分少なくなりました。被災建物の解体も進み、防災への関心も薄れつつあるようです。

熊本地震発生以前、政府の地震調査委員会は、熊本地震の原因となった布田川断層の地震発生確率を「今後30年以内に最大0.9%」と見積もっていました。この確率を見てあなたはどうか感じますか。予測されても、いつどこで発生するのかわからないのが地震。熊本地震の経験を生かし、次の地震に備えることが、命を守る第一歩です。

南海トラフ地震の予測範囲

国の発表によると、菊池市では震度5強程度の地震が発生すると予想されています。



マグニチュード8.9が
高確率で起こると予想

今年2月、政府の地震調査委員会は、南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率（マグニチュード8.9クラス）を「70～80%」に引き上げました。南海トラフ周辺では、100～200年の間隔で大地震が発生しており、最近では72年前の昭和21年に発生しています。いつ大規模な地震が発生してもおかしくありません。

内閣府が平成24年に試算した結果によると、南海トラフ巨大地震が発生した場合、地震の揺れや津波により、建物全壊が最大238万6千棟、死者が最大229万人（九州地方が大きく被災するケース）とされており、東日本大震災（死者約2万人、建物（住家）全壊約12万棟）を大きく上回る被害が想定されています。本市で震度5強程度の揺れが想定されています。

本市の周辺には、熊本地震の原因となった布田川断層以外にも、別府万年山断層帯（大分県）をはじめ、大きな被害を起こす恐れがある断層もあります。

自分の身は自分で守る

避難場所や避難経路の確認

避難場所は市が開設する避難場所だけではありません。日頃から近所の空地や駐車場など、すぐに避難できる場所を家族や近所の人と確認しておきましょう。

1週間分の水や食料を準備

ローリングストック法^(※)を取り入れ、食料の備蓄をしましょう。人間は1日あたり2～3リットルの水が必要といわれています。2人暮らしならば2リットル×6本入り箱を3箱持つておくといいでしょう。

※日常的に非常食（缶詰やカップ麺など）を食べて、食べたらずい分という行為を繰り返す、常に新しい非常食を備蓄する方法。

携帯トイレの準備

災害で上下水道が損傷すると、携帯トイレが必要になります。携帯トイレはホームセンターなどで購入できます。

寝室には大きな家具を置かない。懐中電灯は枕元に

睡眠中は急に動けません。背の高い家具の近くで寝ないよう心がけましょう。背の高い家具がある場合は固定し、重い荷物は下の段に収納します。また、夜間の避難に備えて枕元に懐中電灯を用意しておくのも大事です。

非常時の持ち出し品は日頃からそろえてリュックサックに

非常持ち出しセットをリュックサックに入れ、バッグ1つで避難できるようにしておきましょう。リュックサックが良い理由は、物がたくさん入り、両手が使えない状態で避難できることです。

地震保険への加入

災害が発生した場合、金銭的な補償を得ることは、災害復旧の重要なポイントです。事前に損害保険などを契約し、損壊した住宅の復旧費用などを確保しておくことが必要です。

防災士の育成

防災士養成講座を開催しました

市では、地域防災力の向上のため防災士の育成に力を入れています。防災士とは、「自助」「共助」「協働」を原則として、社会のさまざまな場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを、日本防災士機構が認証した人です。

2月17、18、25日に合志市と菊陽町と合同で「平成29年度防災士養成講座」を開催しました。气象台職員や大学教授など、防災の第一線で活躍する専門家からの講義や演習で、平時からの備え、災害が発生したときはどのように対応するかなどを学習しました。防災士の地域に根ざした活躍が期待されます。

富の原北区自主防災会

震災で変わった防災意識

熊本地震のとき、避難場所が分らない住民が何人もいたんです。区には約100世帯、約300人が暮らしています。しかし公民館がなく、地域の集まりも少なかった。人同士の結び付きが弱かったのかもしれない。

地域の防災力を高める必要を感じ、昨年4月に自主防災組織を設立。まず、一時避難場所を菊池農業高校にしました。また、安否確認カードを作って各家庭に配布。



富の原北区自主防災会会長
澤田和久さん

避難する際に提出してもらうことで、各家庭の避難状況を素早く集約できるようにしました。11月には菊池農業高校と合同で防災訓練を実施。避難の手順を確認しました。震災を機に地域のつながりの重要性を再認識しました。普段から住民同士が助け合える区にしていきたいです。

防災紙芝居

一緒に楽しく
学びませんか？



女性消防隊が保育園や幼稚園に出向き、読み聞かせを行います。クイズを交えて災害時に役立つ知識を紹介します。

■申し込み・問い合わせ先
防災交通課
☎0968(25)7203